

昼間のパパは光ってる

羽賀翔一／コルク／2016年

「忘れるなよ おれのこと・・・」。タクのお父さんは、ダムをつくるために山のなかの工事現場に旅立った。家に帰れるのは8年後だ。「長い間一緒にくらせない。でもそのかわりダムが完成した日に、本当のヒーローに会わせてやる」土木業界で働く喜びと葛藤、支える家族への思いを描いた建設業で働くお父さんの物語です。

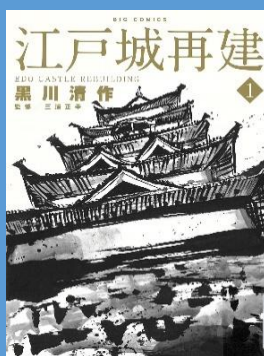


ダムマンガ (全4巻)

井上よしひさ／少年画報社／2014～2016年

ダムを愛し、現地を巡る「ダム部」に入部した女子高生たちの活動を描いたマンガです。図書館でも人気があり、若者からご年配まで幅広い年齢層に利用されています。

作中には、黒部ダム、宮ヶ瀬ダム、利根川河口堰、白丸ダム、小内ダム、蕨原ダム、三国川ダムなど、実際にあるダムが次々と登場。最終巻では意外な結末が待っています。



江戸城再建 (全3巻)

黒川清作 三浦正幸 (監修)／小学館／2019～2020年

2020年。大手デベロッパーの辣腕社員・堀川省吾は、「皇居東御苑内に江戸城天守閣を再建する」というプロジェクトを提案する。現代において、江戸城再建にどのような意義があるのか、そして実現は可能なのか。いわばシミュレーション漫画ともいえる意欲作。監修は、城郭建築の第一人者である三浦正幸広島大学名誉教授。



土砂どめ奉行ものがたり

青木朋／双葉社／2014年

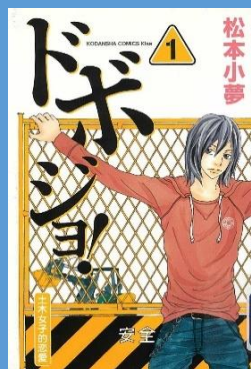
江戸時代の人々は資材や燃料を草木に頼っていたため、乱開発により山は荒廃して土砂崩れや洪水などの災害が頻発していました。そこで「諸国山川掟」などの環境保護法令が發布され、土砂留奉行という役職を置き、木の伐採や草刈を取り締まりますが、農民などの反発を招くこととなりました。本作は、江戸時代の環境政策をテーマに、そこに生きる人々と自然の姿を昔話風にアレンジしています。



匠三代（全11巻）

倉科遼（原作）佐藤智一（作画）天野彰（原案・監修）／小学館／
2011年～2014年

東京・深川で工務店を営む、大工棟梁、工務店社長、一級建築士の親子三代。地元でも「匠三代」と呼ばれるほどの腕前をもつ親子三代が手がける家づくりの物語が、江戸情緒の残る下町を舞台に繰り広げられます。



ドボジョ！（全3巻）

松本小夢／講談社／2011年～2013年

「ドボジョ」とは土木関係の仕事に携わる女子のこと。「ニッカポッカに長袖Tシャツ、つま先に鉄の入った安全靴、頭にはタオルを巻き付ける」そんなスタイルで、フォークリフトやダンプを乗りこなすカッコイイ「ドボジョ」の恋愛や友情、仕事への誇りを描いたマンガです。



そろそろ家の話をしましょう。（全2巻）

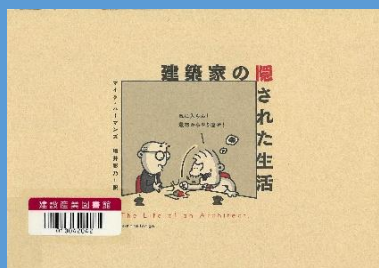
西本英雄／講談社／2015年～2016年

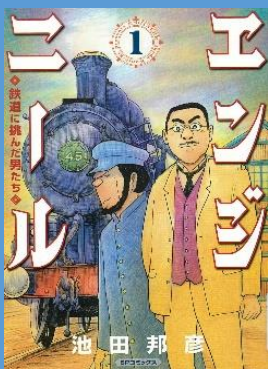
ヒューマンドラマっぽいタイトルは何なのかというぶっ飛び漫画。初回から建築現場にUFOが埋まっていたり、何の予備知識もなく読んだので目が点になりました。狙ってはみたけど、見事外しちゃった見本みたいな作品ですが、そういうのが好きな人にはお勧めです。

建築家の隠された生活

マイク・ハーマンズ 増井彩乃（訳）／エクスナレッジ／
2018年

いつも黒のスーツ姿の建築家のアーチボルド。紙と鉛筆と製図版という昔ながらのやり方にこだわり、その言動はちょっと独特で…。建築家でもある著者が、理想を追い求める建築家を、ちょっと皮肉に、ユーモラスに描いています。建築家の方なら、この気持ちがわかる？





エンジニアール（全2巻）

池田邦彦／リイド社／2017年～2018年

日本の鉄道黎明期である明治時代。物語は関西鉄道から官設鉄道に転職した鉄道技師の島安次郎と、天才的技能を持つ鉄道機関士を中心に、初期の鉄道運営の様子、蒸気汽車を運転する苦労や、鉄道事業が発展していく様子が描かれています。後藤新平などの著名人も登場。



BUILD KING（1巻～2巻）

島袋光年／集英社／2021年より続刊中

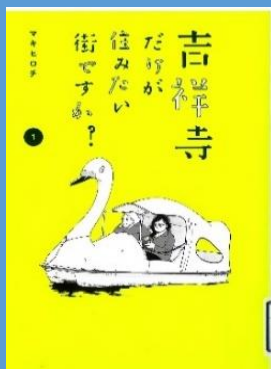
強い家を建築して平和築く！伝説の建造物“ビルドキング”の現場に向かった親方を追って、育った島を旅立った兄弟、とんかちとレンガ。モンスターたちと建築術で闘いながら、ビルドマスターを目指す建築バトルファンタジーです。



正直不動産（1巻～11巻）

大谷アキラ 夏原武（原案）水野光博（脚本）／小学館
2018年より続刊中

登坂不動産のエース営業マン・永瀬財地は、とある地鎮祭で石碑を壊して以来、嘘がつけなくなってしまった。「千の言葉の中に、真実はたった三つ」と自身がうそぶいていた不動産営業マンにとって、致命的なハンデを負った永瀬は、絶体絶命の苦境をどのように乗り越えていくのか。不動産屋の裏側を全部ぶっちゃけちゃうニュー・ヒーロー、ついに誕生。



吉祥寺だけが住みたい街ですか？（全6巻）

マキヒロチ／講談社／2015年～2018年

“住みたい街No. 1”の吉祥寺は、本当にあなたが住みたい街なのか。不動産業を営むメタル大好き姉妹が、あなたの街を見つけます。キメゼリフは「じゃあ、吉祥寺やめよっか？」。2016年にはドラマ化もされた人気作。



ナガサレール イエタテール 完全版

ニコ・ニコルソン／太田出版／2020年

宮城県山元町にある著者の実家は、2011年3月11日の津波で大きな被害を受けました。「生まれ育った町に帰りたい」力なく避難生活を送る祖母の願いを叶えるため、瓦礫の山となった実家を再建することを決意した著者でしたが、再建までの道のりには様々な難題が…。軽いタッチで描かれていますが、避難生活のこと、被災した家を再建する過程や被災者の思いがリアルに伝わる一冊です。

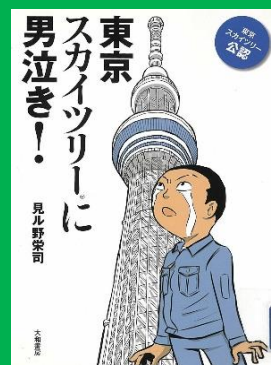


ボクんち事故物件（1巻～2巻）

松原タニシ（原案）宮本ぐみ（漫画）／竹書房

2019年より続刊中

レギュラーコーナーを持たせてやるという甘言につられて、事故物件での生活をスタートさせた芸人・松原タニシ。怪奇現象がおきるといわれるいわくつきの部屋で、彼を待ち受けるものは何か。芸人さんも売れるためには大変なんだな、と改めて実感させられました。



東京スカイツリーに男泣き！

見ル野栄司／大和書房／2012年

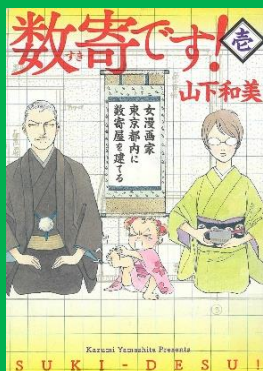
2012年に完成した東京スカイツリーは、地上デジタル放送等のために建てられた電波塔。高さ634メートル、塔を組み上げる鉄骨は3万7千ピースでしかもその全てのサイズ、形が違うという。高所での施工、耐震技術、電気設備、日本的な美しさへのこだわり…まさに「男泣き」な東京スカイツリーにまつわる話を取材したルポマンガです。



現場王

見ル野栄司 中経出版（編）／KADOKAWA／2015年

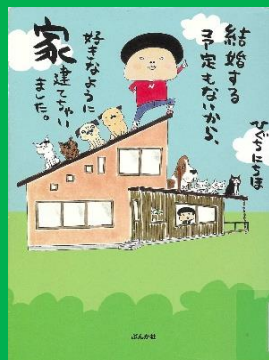
鳶職、庭師、塗装職人、左官工、宮大工など、職人の方々の現場を体験取材、仕事の極意に迫ります。現場で鍛え抜かれた職人の方々の語りには、ハッとさせられる言葉が満載です。建設関係のほかには、ラーメン職人、しらす漁師、パティシエなどが取り上げられています。



数寄です！（全3巻）

山下和美 創美社（編）蔵田徹也（監修・コラム）／集英社／
2011年～2013年

「家、建てます。それも和風ではなく和そのもの」。建築家との出会いをきっかけに、都内に一戸建ての数寄屋を建てることを決意した著者。数寄屋を建てるからには、「和」の心をもった数寄者になろうと茶道や華道を習うことから始め、土地探しや資金繰りなどに奔走。見事に数寄屋が建つまでを描いたエッセイマンガです。コラム「数寄屋ぶくろ」付き。



結婚する予定もないから、好きなように家建てちゃいました。

ひぐちにちほ／ぶんか社／2017年

30代独身、マンガ家。夢は自分好みの「マイホームを建てる」こと。偶然見つけた三角形の小さな土地を購入し、マイホームの実現へと突き進みます。

特に建築家にあれこれ希望を伝えるやり取りが面白いです。出来上がった家の写真も掲載されていますが、各所に施主である著者の夢が反映されているのがわかります。



リノベ暮らしはじめました

たかはしみき／新潮社／2020年

結婚を期に、中古マンションの一室を購入してリノベーションすることを決めた夫婦。物件探し、建築士探し、内装決め、工事、お金のこと、住んでから気づいたことなど、リノベーションにまつわる実体験が具体的に描かれていて、これからリノベーションを考えている方には参考になりそうです。本作では一度目のリノベーションの後、子どもが生まれたのをきっかけに2度目のリノベーションにも挑戦しています。すっかりはまってしまったようです。



やっちまったよ一戸建て！！（全2巻）

伊藤理佐／文藝春秋／2005年

家を買うことを思い立ったマンガ家。「一戸建てありますか？」と不動産屋を訪ねるも理想の家は予算で買えず、結局新築の家を建てることに。銀行とのやり取り、工務店や設計士との話し合い、地鎮祭や棟上げ、大工さんとのお付き合い、防犯やシックハウス対策など、家を建てることのさまざまな事柄をクリアしていく様子がコミカルに描かれています。